



農政課題解決研修情報

農政課題解決研修(革新的農業技術習得支援研修)事務局 (連携普及部 連携普及企画室(担当:大島))
電話 029-838-7599

<研修実施状況>

○果樹の温暖化適応技術

果樹研究所では、9月9日～10日に標記に係る研修を実施し、20都府県から25名の果樹分野を専門とする普及指導員等が受講しました。気候温暖化が果樹生産に及ぼす影響やその対策技術に関する最新情報の習得を目的に、当所の果樹栽培分野を専門とする9名の研究員を講師として、1)気候温暖化が果樹生産に及ぼす影響、2)果樹における気候温暖化影響評価手法、3)ブドウの着色改善技術、4)気候温暖化がカンキツの生育に及ぼす影響、5)ウンシュウミカンの浮皮軽減技術、6)リンゴの着色不良、日焼け果等の軽減技術、7)果樹の霜害回避技術、8)落葉果樹の休眠機構、9)落葉果樹の休眠打破技術、10)果樹園における温室効果ガス収支について、講義を中心とした研修を実施しました。

「果樹における気候温暖化影響評価手法」では、各地域の現在および将来の温度分布を推定するための基礎資料となる1次メッシュ気候図を各自ノートパソコンを用いて作成する実習を行いました。また、気候温暖化の影響で発生が増加しているブドウの着色不良、ウンシュウミカンの浮皮、リンゴの日焼け等を改善するための具体的な対策技術について紹介しました。

研修終了後のアンケート結果では、研修全体を通して受講者から良好な評価を頂きました。受講者の皆さんから寄せられた其他のご要望やご意見は、今後の研究推進や研修計画に活用させていただきます。

(担当:果樹研究所 業務推進室 中村)



果樹における気候温暖化影響評価のための1次メッシュ気候図作成実習



総合討論

○切り花の日持ち向上技術

花き研究所(茨城県つくば市)では、9月10日～11日の2日間にかけて、標記に係る研修を実施し、全国の普及指導員等22名が受講しました。切り花の日持ちは、消費者アンケート等で大変関心が高く、日本国内でも日持ち保証販売により切り花の消費の拡大が期待されています。近年、花き研究所において取り組んできた「花持ち保証に対応した切り花品質管理技術の開発」の研究成果が全国の普及指導の現場で高い関心を持たれているため、本研修ではその最新の研究成果の紹介と解説を、講義と実習により行いました。

研修1日目は、花き研究所及び外部講師各2名ずつにより、日持ち保証販売の現状、バラ・カーネーションをはじめとした切り花の品質管理技術についての基礎的な講義を行いました。また、受講者の各地域における切り花の品質管理技術の現状と課題についての発表、討論を行いました。2日目は、花き研究所研究担当者及び外部講師各1名ずつにより、被験者試験の結果による切り花の観賞価値と品質評価、卸売市場における日持ちの重要性と品質管理についての講義を行いました。また、講義終了後は、生理遺伝実験棟に移動し、居住空間の環境を設定した切り花検定室において、試験開始日を3期に分けた27品目の主要切り花の日持ち試験と評価方法についての実習を行いました。

受講生の感想(アンケート)では、「切り花の日持ち向上について、その生理から試験方法まで幅広い内容であった。」、「普及の現場で活かせると思った。」等の意見をいただき、研修全体を通しての感想は、「大変良かった」が73%、「まあまあ良かった」が27%(合計100%)で、全体的に高い評価をいただきました。

(担当:花き研究所 企画管理室 企画チーム 岡田)



「バラ等切り花の品質管理技術」の講義



切花検定室における日持ち試験及び評価方法の実習